

令和3年度 アントレプレナーシップ教育 実践事例

小学校第5学年「総合的な学習の時間」

単元名：夢のポテトチップス作り

取組の概要

令和3年度に創立70周年を迎えた区立常盤台小学校。本単元は、2016年から毎年第5学年で実施されていましたが、これまではポテトチップスのネーミング、試作・味決め、プレゼンテーションまでの取組でした。今年度は、味、ネーミング、パッケージ全ての行程に児童が参加する一大プロジェクトになりました。子どもたちが「どんな人に、どんな思いで、どういった商品を食べしてほしいか」と相手目線で考えたものがパッケージ化されたことで思いが形となり、「自分たちにもできるんだ！」と喜びを実感し合いました。



アントレプレナーシップ教育を位置付けたねらい

問題解決力

コミュニケーション
能力

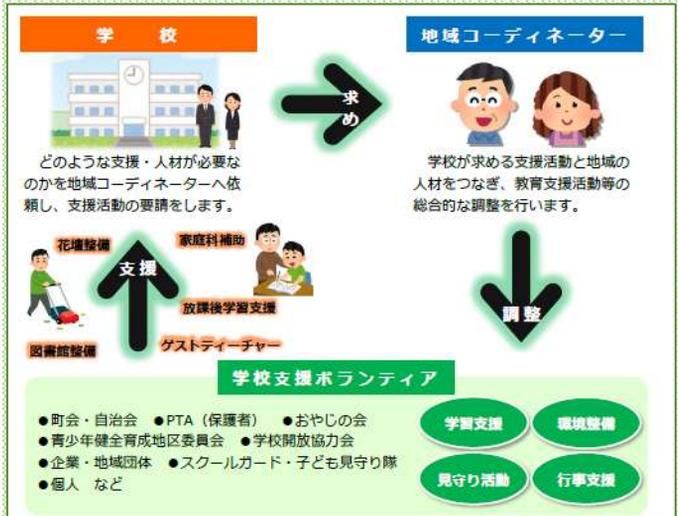
情報収集・分析能力

単元全体の学習内容

- 地元協力企業代表者による出前授業
(内容) 仕事との出会い、きっかけ
新しいことへのチャレンジを続けることの苦労と大切さ、かける思い
商品開発、ものを作ることの面白さ
ものづくりの過程での人との関わり、人に評価してもらう面白さ
買う人に喜んでもらうのが喜びであること など
- ポテトチップスの「味」開発・・・発想の転換、リサーチ、コンセプト など
- 「味つけ」体験・・・味のないポテトチップスにスパイスをかける
- アイデア会議・・・各自が考えた味を試食。一押しを決める。
- プレゼンテーション・・・グループ推しの「味」を発表
- パッケージデザインの選定

アントレプレナーシップ教育 × 学校地域支援本部

板橋区のアントレプレナーシップ教育では、学校と区内の企業や商店街等との連携を図り、組織的な体験活動を促進しています。その際活用を期待されるのが、学校地域支援本部の制度です（右図）。平成20年度に開始された本制度は、平成30年度から全小中学校で実施され、学校だけでは取り組むことが困難だった様々な活動を地域の方々が支援してくださっています。



地域コーディネーターさんに訊く！
「夢のポテトチップス作り」実現に向けて

Q ポテトチップスづくりのきっかけは何ですか。

A 前任の校長先生から、5年生に何かものづくり体験として学ばせることはできないか、と相談されたのがきっかけです。本校のコミュニティ・スクール委員には、地域の製菓会社の方がいらっしたので、協力を依頼して始まった取組です。

Q 学校外の企業と連携していく上で、工夫した点や苦労した点はありますか。

A 苦労は特にありません。工夫した点としては、地域の企業さんを活用することです。日頃から地域に根ざした活動を第一に考えて、ご縁を大切にしています。そもそも、学校支援地域本部は、学校や担任から相談があったことの実現に向けて努めています。これまでも、地域企業・商店・高齢者施設との連携、外部講師や文化交流の人材調達や調整を行ってきました。その経験が財産です。

Q 本企画の成果と課題は何ですか。（回答：校長）

A 成果は、パッケージ化され、思いが形になったことで実感が高まり、子どもたちの大きな喜びとなったことです。また、自分たちの学校名が刻まれているものが沢山配付されることで、誇らしい気持ちになった子もいました。課題は、「本当の商品化」です。今回は、流通のための様々な条件や費用に課題があり、校内のみの限定品としたからです。

Q 学校と地域が連携することのよさを伝えてください。

A 「あのときお世話になった人が公園にいるよ」と子どもが言っています。こうした意識は、地域で学校を見守ることにつながります。まさに公立学校の特徴ともいえるのではないのでしょうか。

